

研究成果実用化促進事業

対策のポイント

実用化に向け解決すべき課題を有する既存の研究成果にさらに改善を加え、地域農業の育成に資する技術として実践的に活用されるようにする研究を行います。

(地域農業の育成に資する技術として実践的に活用されるようにする研究の例)

- 春まきコムギ品種「ハルユタカ」の初冬まき栽培：北海道の春まきコムギ品種「ハルユタカ」は、製パン適性が優れ実需者の評価が高いものの、生育期間の短さや開花期の関係から収量が安定しない等の欠点があったことから、初冬まき栽培の技術を開発し、生産現場でより実践的に活用されるようにした。

政策目標

競争力ある地域農業を育成するため研究成果の活用を促進

<内容>

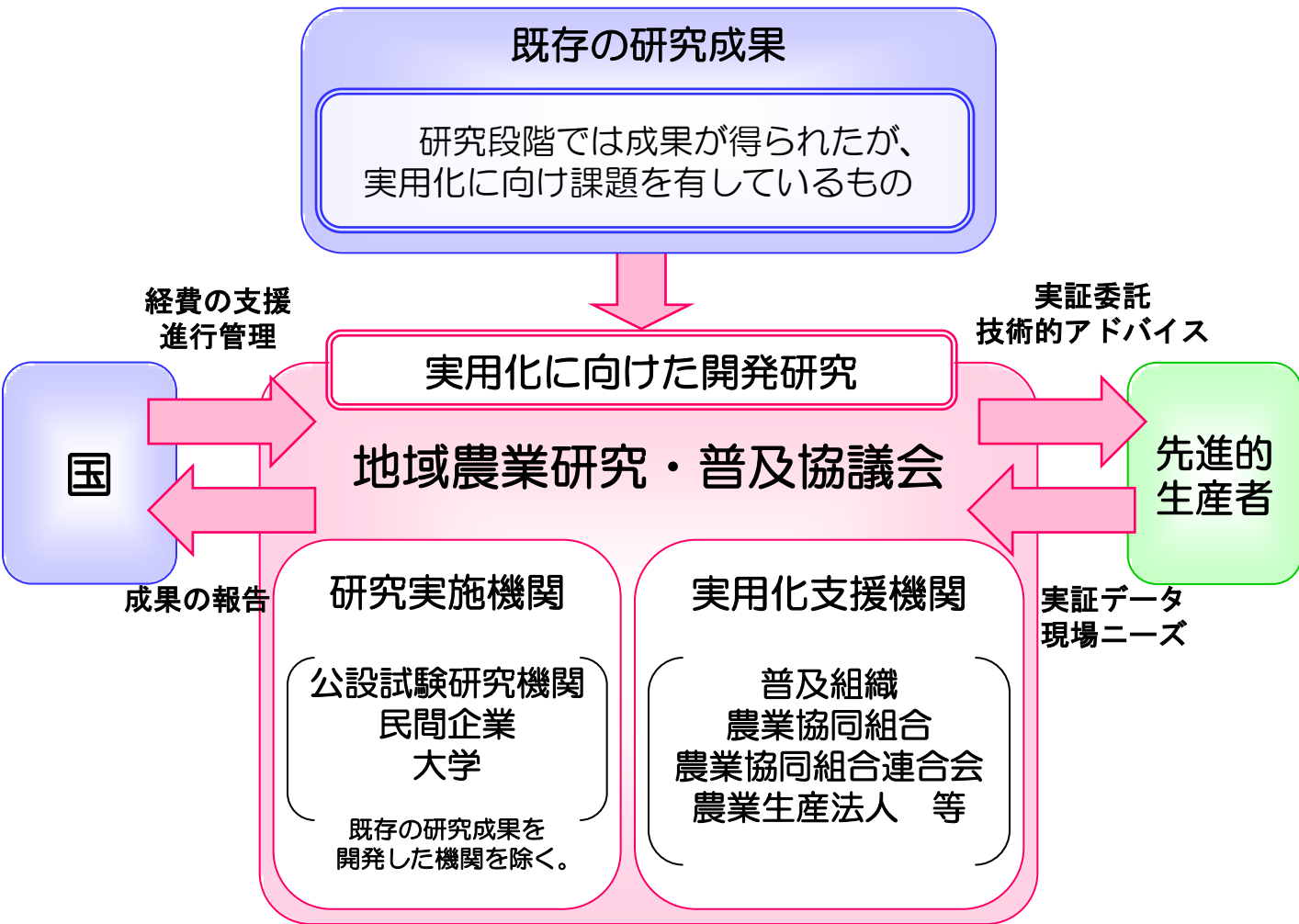
農業に関する既存の研究成果のうち、農業の生産現場での実用化に向け、なお解決すべき課題を有しているものについて、地域の関係機関相互の連携の下、さらに改善を加え、生産現場でより実践的に活用されるようにする研究を行います。

<実施主体> 地域農業研究・普及協議会

<実施期間> 平成20年度～平成22年度

[担当課：農林水産技術会議事務局研究推進課（03-3502-7462（直））]

研究成果実用化促進事業



<対象とする研究課題>

- ・改善を加えることにより、迅速に農業の生産現場に還元しうる技術的研究課題。
- ・重要な農政課題の解決に資する観点からの研究課題。
- ・委託プロジェクト、競争的資金等国費により開発された既存の研究成果を用いたものであること。

<研究課題の例>

春まきコムギ品種「ハルユタカ」の初冬まき栽培技術の開発

- ・北海道の春まきコムギ品種「ハルユタカ」は、製パン時の膨らみが良く独特の風味もあることから、実需者の評価が高い。
- ・しかし、生育期間が短いことや開花期が多雨期と重なることから、収量が安定しないという課題があった。
- ・このため、本品種を初冬にまく技術を開発することにより上記課題を解決し、生産現場でより実践的に活用されるようにした。